

第5回兵庫県環境審議会自然環境部会 会議録

日 時 令和6年10月30日（水）
午後 3時00分開会
午後 4時30分閉会

場 所 ラッセホール5階ハイビスカス

議 題 議事 「生物多様性ひょうご戦略」の改定について

出席者	会 長	中瀬 勲			
	部 会 長	高橋 晃			
	委 員	太田 英利	委 員	谷口 日出二	
	委 員	三橋 弘宗	委 員	與語 信也	
	特別委員	突々 淳	特別委員	山田 裕司	

欠席者	委 員	竹尾 ともえ	委 員	能美 龍太郎
	委 員	辻 三奈		

説明のために出席した者の職氏名

環 境 部 長	菅 範昭	環境部次長	近藤 巧
自然鳥獣共生課長	森田 直子	自然鳥獣共生課副課長	永田 育子
その他関係職員			

会議の概要

（太田委員）

14ページについて、外来種について、ミシシippアカミミガメが正式な名称になるので、ミシシippアカミミガメと記載すべき。

（事務局）

名称について、県民に知れ渡っていないことも多いため、外来種名をできる限り記載したい。

（中瀬委員）

第1～4の危機について独立して書いてあるが、危機の関連性を書いてほしい。40ページのシカの食害による植生の保護について書かれているところで、4つの危機は関連していると記載してはどうか。

45ページの台場クヌギの写真について、どれが台場クヌギか分かりづらく、写真を提供するので差し替えてほしい。また、53ページの丹波篠山の黒大豆栽培のコラムについて、灰屋の写真もどこかに入れてほしい。

指標について、④環境保全に取り組むNPO法人数と書いてあるが、民間企業も積極的に環境問題に取り組んでいる。⑧で森づくり参加企業数も書かれているが、これをもう少しうまく整理してほしい。NPO法人だけが環境保全に取り組むだけでなく、民間企業も取り組んでいるので、そのあたりも幅広くカウントできるようにしてほしい。

(事務局)

企業数をカウントするということは難しい部分があり、代表する意味で⑧企業の森づくり参加者数など、担当課で数字を把握できているものは含んでいる。また、ひょうご産業 SDGs 認証事業の企業数もカウントしてはどうかと検討したが、必ずしも SDGs の取組が全て生物多様性に関連した企業というわけではなく、選別が難しい。そのため、民間企業の取組を測る指標としては、⑧でどうかと思う。

(中瀬会長)

例えば旭川では、カタクリとエゾエンゴサクが見られる自然公園を男山酒造が管理している。また、大分では、ツクシフウロなどの保全をセブンイレブンが大分セブンの森として取り組まれている。NPO 法人に加えて、民間企業もとても頑張ってくれているため、数字を把握できるかどうかは別として、民間企業の参画をこれからどう取り込んでいくかが大事なことになる。兵庫県下で、民間企業にさらに頑張ってもらえるように、誘い水になるような指標をぜひ提案していただけると嬉しい。

(事務局)

補足だが、②生物多様性プロジェクト選定件数のなかでも、企業はかなり入ってもらっているほか、③自然共生サイト認定件数でも、企業は入っている。②③④⑧などの指標で、県内の企業の取り組みを把握していきたい。

(中瀬会長)

企業がしっかり取り組んでいるということが反映されている指標にしてほしい。②の指標で、企業もいくらか含まれているからよいという話にはならない。現状認識だけの指標にならず、将来に向けて企業も NPO も頑張ってくれるような指標となるよう考えてほしい。

(事務局)

近年、生物多様性の保全等には企業の役割も大きくなっていて、また、企業も国際的な方向性から生物多様性に力を入れないといけないということも、実際に企業から聞いている。そういった意味で、今回の戦略に間に合うかどうかかわからないが、そういった方向性を反映した指標を設定させていただきたい。

(三橋委員)

10 月から施行される生物多様性促進法で活動の認定というものが加わる。現在、環境省で選定基準と評価基準を検討しているが、そちらが決まるとホームページで企業数を把握できるので、もし可能であれば④を NPO 法人数等にしておけばカウントはでき、現実的なやり方かと思う。

ただ、環境省の認定にしばらく時間がかかると思われるため、目標設定がなかなか難しいと思うが、事業が運用されてから指標に反映する形でもいいのではと思う。

(事務局)

それらは指標③自然共生サイト認定件数とリンクする話か。

(三橋委員)

リンクする。自然共生サイトはエリアを設定するもので、先ほどお伝えしたものは活動を認定するという制度設計になっているため、そちらが運用され始めれば企

業はこぞって活動をし始める。それを見れば兵庫県内の件数などはすぐわかる。

(突々委員)

18 ページの第4の危機で気候変動による海洋への悪影響として、ハタハタが取り上げられているが、ハタハタの近年の不漁は、気候変動による影響かどうかは分からないのではないか。ここに載っていると温暖化でハタハタが減っているように見えてしまうため、もうちょっと代表的なものを選んだ方がいい。

47 ページのため池のかいぼりについて、海底耕うんの写真が載っているが、55 ページには豊かな海づくりの漁業者の取り組みということで同じ写真が使われている。47 ページには本文中に説明もなく、写真だけが載っているのは少し違和感があるため、整理した方がよい。

58 ページの漁業体験ツアーで坊瀬のことが出ているが、55 ページの漁業体験として、同じ坊瀬の写真が載っているため、別の写真に整理してほしい。

(山田委員)

30 ページに六甲山の写真があるが、再度山のイメージの写真でよいものがあるので、そちらの方がよいのでは。なければ私の方から提供する。

35 ページの外来昆虫対策のクビアカツヤカミキリの文章3行目について、伐採・抜根とあるが、抜根よりも重要なのは焼却やチップ化なので、「伐採・粉碎」などの方がいいのではと思う。

40 ページのシカの食害のコラムの文章だが、先ほど中瀬委員からもあったが、2行目の「草原の希少な植物が食害」のところで、草原だけではなく森林の中の下層植生も食害を受けているため、それも踏まえて書いていただきたい。また、文章中に種の多様性がなくなるという文言も書き込んだ方がよいのではと思った。

(事務局)

40 ページは、森林の下層植生の食害については、1行目の「森林の下草や樹木の若芽・樹皮を食べつくしてしまうと、樹木の生長が阻害される」というところで表現させていただいている。種の多様性については承知した。

(谷口委員)

指標について、⑭有機農業の取組面積について、これはどのように面積を把握しているのか疑問である。また、⑳森林ボランティア数について、これは県で開催されているもののボランティア数だと思うが、それであれば年間で人数は決まってくると思うが目標にする必要があるのか。

(事務局)

有機農業の取組面積は、農林水産部において、有機農業よりもう少し幅広い環境創造型農業の取組面積などを踏まえた算定方式で取組面積を求めている。具体的な面積の把握方法について、担当課に確認した上で、メール等でお知らせする。

森林ボランティア数については、登録者数を1万人から減少しないようにという思いから記載している。予算があっても常に一定で1万人というわけではなく、何とか地域の方が声掛けしながら1万人を保っている状況である。これから、1万人から減っていくと考えると、あげておいた方がよいのではということで掲載した。

(山田委員)

森林ボランティアの件だが、県の方で森林ボランティアの講座などを毎年開いて

いて人数を確保できるが、近年の森林等整備の実態は、森林ボランティア以外の地域住民が地域の森づくり活動や森林整備をする事例が非常に増えてきている。増えている要因としては、森林環境譲与税ができて、市町が自ら森林整備をすることになった。その中で、地域住民に対する補助としてそういったメニューを作り出したので、そういった活動も多いのかと思っている。

活動の内容としては、森林の伐採や里山整備をされているところから、人工林をメインにされているところ、また危険木の整備だけされているところなど色々であり、指標に挙げるのはちょっと難しいとは思いますが、実態としてはそういった活動は増えてきているため、どこかにそういった活動の内容も盛り込んでみてはどうか。

(事務局)

検討する。

(中瀬会長)

27 ページの尼崎の中央緑地の写真だがもう少しイメージしやすい写真に差し替えて頂きたい。

また、30 ページの 100 年の森づくりのコラムだが、キャプションが計画前の状態と、緑豊かな植生となっているが、上の写真は植えてすぐの状態、下の写真が 10 年後か 20 年後の状態だと思うので、キャプションを正確に入れた方がよい。初めてこの緑地で植樹をした始まりの森の写真だと思う。

(事務局)

キャプションを修正する。

(中瀬会長)

32 ページに尼崎の森中央緑地と書いてあるが、この下の文章は「尼崎 21 世紀の森構想」のことを書いている。タイトルと中身の文章との整合が取れるようにしたらどうか。逆に言うと「21 世紀の森」のことを書かないと 30by30 の話ではない。ここで書いてあることは、国道 42 号線以南の工場もあって、緑もある 21 世紀の森のこと、地域全体が森ですよということを説明していると思うので、これも変えたらどうか。

(事務局)

阪神南県民センターから提案があったもので、阪神南県民センターに確認する。

(中瀬会長)

県民センターは緑地帯のことだけ注目されて、工場地帯や町のことが話題にされないことを気にしていると思う。できれば水路や運河なども入れてあげれば良いと思う。

(高橋部会長)

写真の適否、的確な写真というのが難しいと思う。集めることは大変かもしれないが、見る方からしたら写真に目が行くので、これはいいなという写真をできるだけ確保することも重要な仕事かもしれない。

(太田委員)

指標⑥野生鳥獣による農林業被害額にアライグマ・ヌートリアの被害額も統合さ

れていると思うが、野生鳥獣といった言葉に、外来種のアライグマやヌートリアは入るのか。野生化しているから野生鳥獣という人もいるが、国の資料だと外来種と在来種としての野生生物を使い分けている。全部に書く必要はないが野生鳥獣という言葉が出てくるところの初めだけ「(外来種を含む)」とか書いた方がよい。

(事務局)

文言を的確にしたい。

(三橋委員)

絶滅危惧種の増減について、なかなか数字で取りにくく、検証・目標設定しにくいと思うが、前回の指標案から消えてしまっていることは気がかりである。例えば、レッドデータのAランクなどが指標としてどこにも出てこないのはどうかと思う。とはいえ、どんどん数が増えてしまうというジレンマがあるなかで、指標②③④⑤などである生物は保全できたと評価できるようにクロスで評価し、この計画が終わった時にあるAランクの生物に関しては、この指標の中で半分くらいはカバーする形で保全できました、というまとめ方が最後できるような余地を残したほうがよいのではと考える。

毎年やる必要はないと思うが、第5章あたりに、戦略の取組の副次的な効果として、まとめとしてとりまとめてみるのも良いかもしれない。草原の維持や外来種対策に取り組んで、そこには企業も参加してくれて、また、セミナーや体験学習など、次世代育成のプログラムにも取り組んでいて、兵庫県は部局連携しながらも生物多様性の保全に繋げていけているというまとめになればいいかなと思う。

まとめの中で、希少種、レッドデータAランクの保全はできていると言えるようにしてほしい。

(山田委員)

指標⑩県立社会教育施設における環境学習プログラム参加者数について、県立社会教育施設だけに限定しているわけではなく、そういったプログラムに参加する県民を増やしていこうという趣旨での指標だと思うが、私もある分野で講師に行っており、各市町の施設や各市町からの依頼もある。これをもう少し幅広に県内の施設・組織の環境学習プログラム参加者数にした方がいいのではと考える。

(事務局)

おっしゃるとおりである。ただ、幅広に施設等を含めようとするあまりに数が多い。どれだけ環境学習が進んでいるのかという傾向を見るために、全市町の数把握しようと思うとかなりのボリュームになってしまうため、例として県立の施設に限った。そのため、この施設に限ったものではなく、もっと幅を広げることできるが、代表的なものとしてこの3つ(①人と自然の博物館の「ひととくセミナー」及び「共生のひろば」参加者数、②環境体験館の体験学習参加者数、③コウノトリの郷公園の環境学習参加者数)を設定した。

(三橋委員)

コウノトリの郷公園ではあまり環境学習プログラムをやっておらず、隣の豊岡市立コウノトリ文化館の方が活発に取り組んでいる。また、神戸市の外来生物展示センターが本文中には出てくるが、指標には出てこないとなってしまうので、集計しやすい主要な施設まとめて、“県内の主な社会教育施設等”にしてはどうか。指標の集計だけで時間を費やしてしまうことは生産的ではないため、活発に取り組んで

いるところを集計して、全体の兵庫県の指標として、市町・県の施設両方で出したら良いのではと思う。ジオパークは、本文中に写真はたくさん使われているが、運営しているところは市町が多いので、本文中に出てくる施設などを指標に挙げておくのがよいのではないか。

(事務局)

選定先については事務局で検討させていただく。

(中瀬会長)

18 ページの第2の危機について、シカの食害により下層植生が衰退した森林という写真を入れられているが、人間の森林への働きかけが低下し、シカを捕れなくなったからこのようになったという意味合いか。

(事務局)

そのとおりである。

(中瀬会長)

環境省の初期の頃の国家戦略には、パンフレットの表紙に川合玉堂先生の「屋根草を刈る」という絵画を入れていた。その絵画が何を意味していたかということ、草屋根の横にびわの木が生えていてたわわに実が成っており、そこをチョウチョがひらひらと舞い、そこを植木職人が屋根の草を刈り取っていることが表現されており、人間が自然に対して働きかけを無くしていったから生物多様性が低下していったというイメージだったと思う。この写真はそういった人間の働きかけが減ったということを訴えられるような写真になっているか。

(事務局)

意図はおっしゃるとおりである。ほかにより案があればご助言いただき、写真を提供いただきたい。

(山田委員)

竹林の拡大に関する写真はいかがか。また写真を提供する。

(太田委員)

同ページの第3の危機のクビアカツヤカミキリの写真だが、確かに最近入ってきて注目されているが、生物多様性に対するインパクトという視点からすると、現時点で分かっている中では、頂点捕食者として各地で被害を及ぼしているのは圧倒的にアライグマだと思う。写真1枚で象徴的に語るとするならば、アライグマの写真がよいのではと考える。

(事務局)

アライグマの写真に差し替える。

(三橋委員)

同ページ第4の危機のハタハタの代替写真について、想定できるものは南方系の魚が生息域を拡大しているのと言えると思う。例えばヒョウモンダコなんかがそうであり、兵庫県でも何カ所も捕獲されている。また、六甲山のブナ林も将来絶滅するとされているため、六甲山のブナがなくなりますという写真でもいいと思う。

(事務局)

ヒョウモンダコは以前掲載しており、別の写真がいいのではとご意見がありハタハタにさせていただいていた。本文中で山田錦の農業面での被害も出てくるため、山田錦の写真はいかがか。

(中瀬会長)

山田錦は園芸して人間が作った栽培品種であり、自然のものと一緒に扱うのはややこしくなると思う。

(三橋委員)

ビジュアル的には丹波のカタクリなどがいいと思う。カタクリは論文も出ていたはずなので、根拠を用意して、適するものにしたらどうか。なければブナ林でいいと思う。

(事務局)

再度検討させていただく。